



桃三小

令和3年度 10月号 No.595

令和3年 9月 30日

杉並区立桃井第三小学校

校長 末永 弘

「文具」になっていくタブレット

一人一台のタブレット端末が配布されました。学校でも毎日、授業の中で活用しています。低・中学生の子どもたちも操作や扱い方に慣れてきた頃です。各ご家庭でも、家庭の決まりを話したり、毎日充電をしたりと、ご協力をありがとうございます。

本校では、『かしこさ』(考えて取り組める子)と、『たくましさ』(粘り強く取り組める子)をキーワードに、子どもたちの思考に寄り添った学習の展開や道筋をみんなで決め、課題の解決を図るという授業を積み重ねています。今日は、タブレット端末を活用した具体的な子どもたちの「学びの姿」をいくつか紹介したいと思います。



1年生の国語科「海のかくれんぼ」です。教師からタブレット端末に送られてきた写真を見て、子どもたちが海でかくれんぼをしている生き物を探している様子です。「どこにいるかな?」「ここにいた!」など思い思いにつぶやきながら、ペンを使って画面上にマーキングをしています。これからスタートする学習に、ワクワクしながら取り組む子どもたちの姿がありました。

2年生の生活科「わたしのまちはっけん」では、ロイロノートの「シンキングツール」を使って、自分の住んでいるまちについて知っていることを書き出したり、イメージを膨らませたりする活動を行いました。



低学年は、まだ「文字を打ち込む」ということが難しい発達の段階ですが、それぞれの段階に応じた使い方にチャレンジしています。

研究主任 安田 由記



3年生の体育「マット運動」です。「自分のできるようになりたい技に取り組もう」という全体のめあてのもと、子どもたち一人一人が「できるようになるために」、自分の体がどうなっているのかということを知る手段として、タブレット端末を活用しました。友達と協力して2方向から動画を撮影して、再生しながら具体的に体のどこがどうなっているのか伝え合い、自分で確かめ、自分の技の出来栄えに生かすという学習を行いました。

後転ができるようになりたい児童は、「おしりをマットの遠くにつく」というめあてをもち、マットにつけた印におしりがついているかどうか位置を確かめていました。



側方倒立回転をより上手にできるようになりたい児童は、撮った動画を見た友達から「もっと手・手・足・足を一直線にするといいよ。」とタブレット上で直線を描き、「もっとあの足もピンと伸ばすときれいだよ。」「ほら、ここ!ここ!」等、画面を見て具体的なアドバイスをもらい、より美しい技に仕上げることができました。

このように、いろいろな教科・領域で、どのように活用したら、学習においてタブレット端末を有効活用できるかということについて、日々試行錯誤しています。タブレット端末が、子どもたちにとって、これまでの筆記用具やノートと同じような、普段使いの「文房具」の一つとなることを目指しています。

また、今後も10月には梅組の算数、11月には3年生の社会、12月は1年生の算数と、残り3本の校内研究の授業を控えています。

学期末には、また子どもたちの様子をお届けしたいと思っています。楽しみにしていてください。

